

スポーツ やる気 up アンケート調査について 2010年9月実施
同志社大学こころの生涯発達研究センター 田中あゆみ (心理学部准教授)

○調査の目的：1人1人の学習意欲やその変化を把握し、適切な指導を行うために利用することを目的としています。そのために、学習意欲（やる気）をいくつかの側面に分けて、詳細な検討を行います。

○調査項目の説明：

秋の調査は、＜学習一般について＞、と、＜スポーツでの学習について＞、の2つのパートに分かれています。これは、まずはスポーツでの指導が学習意欲を引き出しているのかを調べることで、そして、今後調査を重ねることで、スポーツでの学習意欲の変化が学習一般に対しての意欲の変化とどのように関連するかを調べることを目的としています。またそれぞれの質問項目は、以下に示すように学習意欲を3つの側面から調べています。また、スポーツという環境に対する評価を調べるための項目も含まれています。

＜学習一般についての質問項目＞

「勉強することは、楽しいと思う」

一般的な勉強への“内発的動機づけ”を調べる項目です（以降「内発的動機づけ」項目）。内発的動機づけとは、ある行動が自らの興味や関心から生じている状態で、ごほうびや強制や義務などの外からの力がなくても勉強を進めていくことができる理想的なやる気の1つです。

「勉強することは、将来役に立つことだと思う」

一般的な勉強への価値づけを調べる項目です（以降「勉強への価値」項目）。なぜそれをしなければいけないのかわからないという状態では、勉強をする気にはなれません。勉強がたとえ楽しくなくても、それが重要だという認識があれば、やる気になるきっかけとなります。

「自分は「勉強ができない」と思う」（←「全くそう思わない」が4点、「とてもそう思う」が1点）

「自分にとって勉強することは無駄な努力だと思う」（同上）

この2項目は、一般的に勉強をすることでよい結果がえられるかどうかについての自分の期待や予測の程度を調べる項目です。これは“自己効力感”と呼ばれています（以降「自己効力感」項目）。やってもどうせできないという希望のない状態では、やる気になれといっても難しいでしょうが、その行動がうまくいくという見込みがあるとやる気につながります。

＜スポーツでの学習についての質問項目＞

「スポーツで勉強することは、楽しいと思う」

スポーツでの勉強への内発的動機づけを調べる項目です。学校での勉強全体について内発的になるのは難しいかもしれませんが、まずはスポーツでの勉強に興味を持っているかどうかを調べます。

「これからもスポーツに通うことが、「自分のためになる」と思える」

スポーツでの勉強への価値の程度を調べる項目です。

「今の感じだと、これから成績が上がるように思う」

スポーツでの勉強についての自己効力感の程度を調べる項目です。

「スポーツでは、“先生に理解されている”と感じる」

「スポーツでは、先生が私を一人前の人間として扱ってくれているように感じる」

これは、スポーツという環境の“自律性支援”の程度を調べる項目です（以降「自律性支援」項目）。自律性とは、行動を外から指示されたり強制されたりしているのではなく自由に自分の意志で行っている状態のことで、自律性が高いと内発的動機づけも高まります。個別指導塾の長所の1つは、1人1人を理解し、意志を尊重するといった自律性の支援を高めるような配慮をきめ細やかにできる点であるといえますが、この項目でどの程度それができているのかを確認します。

「スポーツで勉強するようになってから、やる気が上がったと思う」

スポーツの効果を直感的に評価してもらう項目です。

○定例アンケートの結果の報告

アンケートの回答に不備のなかった33名のデータについて分析を行いました。学年の内訳は小学生が12名、中学生が17名、高校生が4名でした。各項目について、「全く思わない(1)」から「とてもそう思う(4)」の4点満点の回答を得点として分析しています。

1) 勉強への内発的動機づけについての結果

図1に、勉強への内発的動機づけについて、学習一般とスポーツでの学習に対する回答の平均値を示しました。学習一般の平均値は4点満点中2.59点で「あまり思わない(2)」と「少しはそう思う(3)」の中間の得点でしたが、スポーツでの学習の平均値は3.27で、学習一般と比較するとより楽しいと答えている人が多かったといえます。

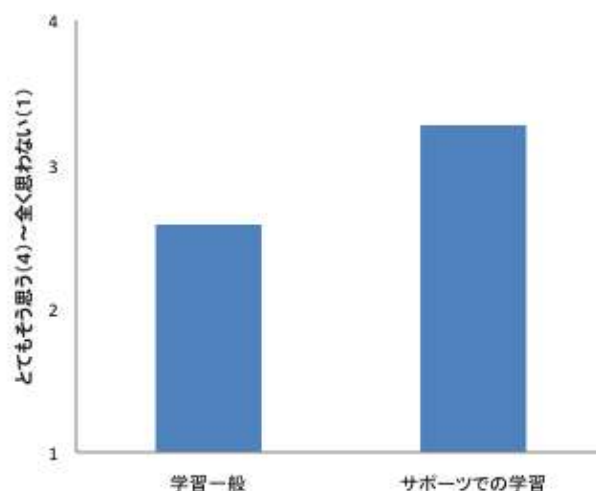


図1 勉強への内発的動機づけの平均値

2) 勉強への価値についての結果

図2に勉強への価値の項目の平均値を示しました。いずれも平均値は3.0（少しはそう思う）より高い値となっています。「サポートに通うことが自分の為になる」という項目には、58%が「とてもそう思う」、36%が「そう思う」と回答していました。

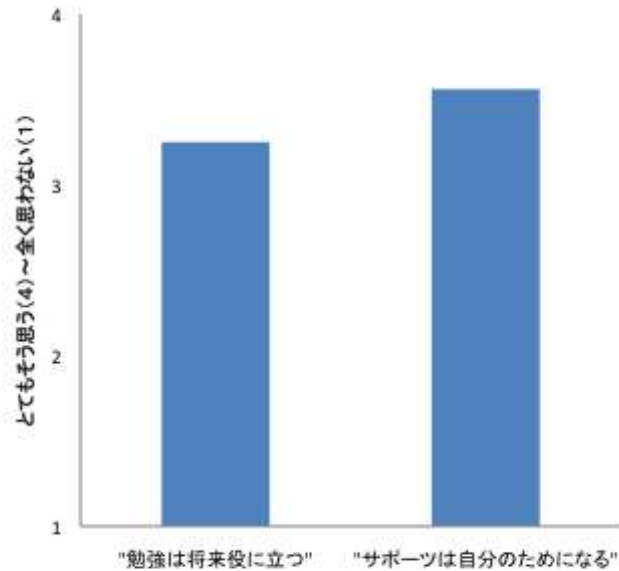


図2 勉強への価値の平均値

3) 勉強への自己効力感についての結果

図3には、学習一般に対する自己効力感の項目の平均値を示しています。「勉強ができないと思う」という項目に対する平均値は2.0と低く、72.7%が「とてもそう思う」または「少しそう思う」と答えていました。ただ「自分にとって勉強することは無駄な努力だと思う」という効力感については平均3.3と比較的高い得点、つまりそう思わないという傾向が示されています。

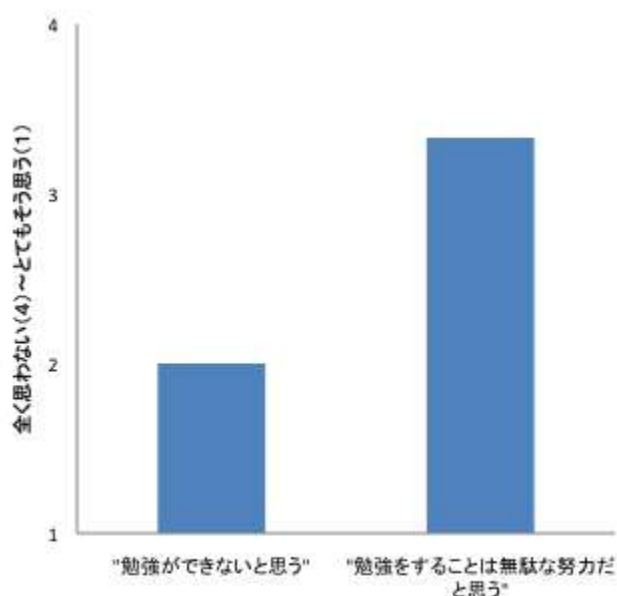


図3 勉強一般への自己効力感

4) サポートの自律性支援についての結果

図4は、サポートという環境がどの程度自律性を支援する配慮をしているかを示す項目への平均値です。「サポートでは先生に理解されていると感じる」の項目は平均値が3.07、「先生が私を一人前の人間として扱ってくれているように感じる」の項目の平均値は3.02で、どちらも82%が「少しはそう思う」「とてもそう思う」と答えていました。

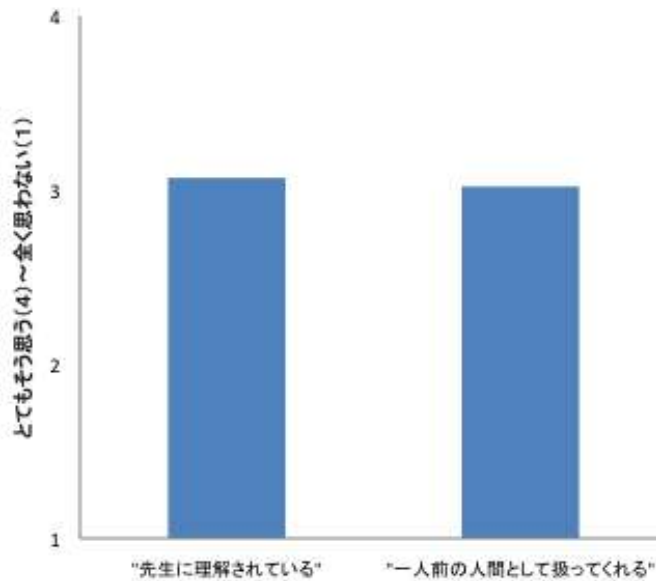


図4 サポートの自律性支援

5) 結果のまとめと今後の課題

今回のアンケート調査の結果より、学習意欲の3つの側面についてまとめると、学習への内発的動機づけや勉強への価値づけは低くなく、またサポートでの学習に対して高い内発的動機づけや価値づけ、そして自律性支援の認識をもっている傾向がありましたが、「勉強ができないと思う」という低い自己効力感の生徒が多いことがわかりました。今後は、サポートでの学習指導や自律性の支援により、学習一般に対する内発的動機づけをさらに高めることができるか、また、低い自己効力感を変化させることができるのかを検討することが課題であると考えられます。